

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200908		
法人名	社会福祉法人 長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホーム たんぽぽ		
所在地	長崎県佐世保市石坂町177-29		
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 5 日	評価結果市町村受理日	平成29年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=4290200908-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成28年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に職員も仲良く、チームワークを大切に、笑顔で生活を送っていただけるようにと職員皆で頑張っています。今年は、地域との繋がりを強めるために、公民館へ利用者様と出向いたり、七夕に子ども会の子供たちに来てもらったり、ほそぼそではありますが、少しずつ地域の方たちの力を借り、社会から孤立せず生活する支援を行っている最中です。利用者様が自分らしく生活をしていただけるよう、また職員間も、思いやりと感謝の心で輪を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、民家が立ち並ぶ環境の中に施設である事を感じさせない佇まいである。ホームの中では、入居者と職員の明るい会話が響き渡り、まるで大家族が住んでいるような家庭的な雰囲気を強く感じさせられる。職員間の連帯感やお互いの思いやりが入居者の日々の生活を支え、安心して生活が送れている事に繋がっている。職員は、いざ自分がここに入居したいと思えるホームを作ること常日頃から目標にしている為、馴れ合いではない職員と入居者の一体感が見受けられる。自宅の居間で安心して時を過ごしているような入居者の姿やその姿を温かく見守っている職員の姿が家族以上の信頼関係を築いていると見て取られる。今後も目標に向けて努力を惜しまず良質なサービス提供の継続できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	たんぼぼの職員で考えた理念で、職員の異動があってもたんぼぼの良さを理念を共有することで実践につなげている。	法人理念と施設理念を策定している。施設の理念は、平成29年1月より新しい理念を掲げる為に現在施設全体で実践に繋がられるような内容の理念を考えているところである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の清掃、バレー、ソフトなどの参加。廃品回収の協力など地域の活動には参加協力している。	町内会に加入しており、運営推進会議には町内会長・民生委員や隣町の公民館長が参加している。町内の老人会にあたるサクラ会のいきいき元気教室等に、入居者が交代で参加できるよう支援を行っている。今後も更に深く地域との繋がりができるように努力している最中である。これからの計画として、施設を開放して豚汁会を開催する計画を練っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実行できておらず現在検討中。町内の公民館役員の方々と話しながら今後実現していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議があるので、町内の情報なども頂き、現在、公民館で行われている事に、利用者様も参加してもらっている。	運営推進会議で公民館長等に行事のチラシを掲示板に貼付の依頼をしたり、町内行事に参加させてもらっている。AEDを設置している事を地域住民に周知してもらおう運営推進会議で依頼している。町内の状況の聴き取り、施設の実情の報告で地域との情報交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とのやり取りで、市側のほうから困難事例の紹介があつての入居の検討をおこなったり、介護度の重くなった方の検討の相談を行うなどしている。	運営推進会議に市長寿社会課職員が参加しており、困難事例等の相談があれば可能な限り入居を受け入れたり、施設の困難事例を相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が、法人全体で発足し毎月会議がある。会議であったことを持ち帰りホームの中でも話し合う機会が増えているおり実践している。	法人全体の各マニュアルや委員会は確立している。現在は、身体拘束にあたる事を行っている入居者はいない。職員は、身体拘束について職員会議等で話し合い、身体拘束にあたる内容には意識を持って職務に就いている。	法人共通のマニュアルは存在しており、今回、ホーム独自の身体拘束や虐待防止等、施設保管用の各マニュアル作成を提案した。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でも、常に利用者様の状態を申し送り、体や心の変化、体の異常を見過ごさないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の場で、制度について話をしている。成年後見制度を利用するようになったご利用者もいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には理解、納得していただくよう疑問点がないか尋ねいつでも問い合わせさせていただけるように声かけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、ご利用者の参加をしていただいた。家族の参加ができていただけなかった。	運営推進会議には、仕事を持つ家族の参加ができていない。面会時に議事録を渡したり、遠方の家族には送付している。家族の面会時に、意見や要望の聴き取りをしている。	意見箱の作成はしているが、設置しておらず、家族や面会者等の意見を聞く姿勢の意思表示に繋がる事から再度設置してはどうかと提案した。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議に、本部から出席していただき職員の意見があれば、聞いていただける環境にあり検討していただける。	常日頃の職員間の信頼関係の構築が成立し、職員同士がお互いの役割を理解しあっている為、職員会議だけでなく日常生活の支援の中でもホーム内で意見や提案を聞き取ることができ、日々の職務に反映できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップのため、助成金の手続きなどもしていただける。10年勤続の人は、海外旅行に連れて行っていただける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年二回の人事考課を通して職員の能力等を把握され、法人内外の研修の情報を発信していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市グループホーム協議会へ加入しており研修、親睦会などに参加しサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時は、出来るだけ時間をかけ面談するようにしている。本人からの聞き取りと、以前にサービスを利用されていた方は情報をいただくこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際に見学に来ていただき、できるだけ時間をかけ話を聞くよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームなので、ここでのサービスが良いのか状況によりその方に合ったサービスを検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事があれば、教えてもらったり。食事でも職員と一緒に食べ家族のような環境をつくっている。家事も出来ることを手伝っていたり、職員が頼りにしていること感謝を伝えるなど行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会や行事等にきていただいたり、帰宅願望の出た人にたまに外泊の協力をお願いするなど。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から行っていた、美容室やかかりつけ医など継続している。	入居者の友人等が面会に来た時には、フロアで職員も話に加わる事で入居者がこれまでどのように生きてきたかの聞き取りや施設では把握できていなかったことを知る事ができ、その後の個別支援に役立っている。馴染みの理美容室、受診等の同行、希望により、馴染みの商店街等買い物同行、外出の際に墓参り等の外出支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る場所や、食事の時の席など相性を考え気分良い環境になるよう努めている。外出時も、助け合える組み合わせで車の席を考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時から、よい関係性をつくらせているので契約終了後のつながりを持っている。相談があれば、応じるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様や、家族から聞き取り、本人様の意向が聞けない方は職員、家族で検討するようにしている。	入居者・家族には必要時に希望が言えるような雰囲気作りや意思疎通が困難な入居者には身体で表現できる様な言葉掛けや選択肢を設けて頷きや表情を逃さず察知して入居者の意思の把握等行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に把握できることは、ご家族や本人様から聞き取りを行い、利用開始後も会話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや、日々の申し送りなどで職員間の情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の意向、課題について職員全員で検討し、医療や、栄養面、福祉用具の方の意見が必要な時は意見をいただくようにしている。	職員が各々の入居者を担当し、本人・家族の希望・意見を聴き取り、モニタリングを行っている。日常生活の中での観察や日頃の会話の中での聴き取り等で入居者のニーズの把握を行い、ケアプランに反映させている。緊急を要する際のケアプラン変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りや、申し送りノート、個別記録で情報を共有し、工夫した事などカンファレンスに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体能力の低下に伴い、必要な福祉用具の検討など、家族、福祉用具関係者との相談の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療の部分で、ご家族や利用者様の意向を尊重してかかりつけ医の受診を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を希望されているところも協力医療機関等も、連携をとりながらご利用者が安心して医療を受ける事ができるよう支援している。	施設の協力医や以前からのかかりつけ医の往診と週1回、訪問看護の利用を受ける事ができる。それ以外のかかりつけ医への受診は、家族の協力や職員が同行して受診の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護の日には、気づきや相談をすように職員間で申し送っている。訪問看護の看護師さんも、積極的に利用者様の方からの訴えも聞いてくださる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを渡し、病院側へ情報提供を行っている。退院は、病院側との経過報告をまめに行い、医療行為が必要ないなら早めの退院を勧めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の面会時に、終末期のあり方をご家族と話をするようにしている。場合によっては、他事業所への移動を検討する場合もある。	以前、看取りの経験がある。看取りに関する指針や同意書を作成し、施設で看取りができる状態であれば支援を行う。身体状況により、医療的措置が必要になった場合は医師や看護師等の指示の下での看取り、または医療施設への移設等施設で可能・不可能の見極めができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所での研修や、外部研修などに参加し、職員で対応できるようにしているが、新人職員などの訓練は不十分。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練は、火事の想定で年2回行なっているが、地震災害の場合などの避難訓練としては行っていない。運営推進会議の時に災害時のお願いをしている。今後は、年2回の地震・水害等の避難訓練を行う予定。	防災計画書作成。自然災害対策は今後作成予定。火災訓練では、消防署立会、昼間・夜間想定訓練を年2回行っている。現在地元消防団との協力体制がない為、これから協力依頼をする。施設内のカーテンは防災素材を使用している。職員は、消火器使用の訓練を実施し、消火器を使用した初期消火の修得ができています。	有事の際の役割分担を明確にしておく事が重要である為、その日のシフト上での職員の役割分担の取り決めを職員で検討してはどうか提案した。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	代表は、常日頃から尊厳を大切にと言われています。できる限りプライバシーを損ねない声かけをしています。耳が遠く大きな声で伝わりやすくしようとしてはいけない場面もあります。	接遇マナーに関しての内部研修は施設ごとに持ち回りで担当し、今回は当施設が担当する。年1回、法人全体で講師を招いて研修を受けている。居室に入室の際はノックして名前を呼びかけて入室している。名前の呼び方は、基本名字とさん付けであり、入居者の希望に応じた呼び方も変更する事がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューや、髪を切りたいなど、希望を話されることが多いので、出来ることの支援は行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活の決まりでの声かけを行うが、基本的に無理強いせず、利用者様のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や髪留めなど、本人の希望がある場合は準備し、おしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、食事のあとの下膳など、お手伝いできる方にはお願いしている。	食材の下ごしらえや下膳・テーブル拭き等ができる入居者に作業をお願いする事もある。入居者の希望があればカップラーメン等の提供をしている。食べたい物の希望にはできる限り応じている。以前使用していた茶碗・コップ・箸を施設でも使用している入居者もいる。身体に傾きがある入居者にはクッション等を挟めて姿勢を整え、誤嚥防止等に努めている姿が見受けられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量の把握を行い、月に1回の体重測定をしている。水分制限の方もいらっしゃるの、きっちり支援している。飲み物も、好みに合わせ摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全介助の方、一部介助の方、その人に合わせた支援を行っている。協力医があるので、指導をしていただくことも多々ある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、声掛け誘導などでトイレでの排泄を促している。夜も、声掛けトイレ誘導を行っている。	夜間帯は、2時間おきに巡回、個別に応じた排泄の声掛けにて排泄誘導・介助を行っている。排泄に関して自立に向けての職員の意識付けがあり、ケアプランに反映させている。他者に気付かれなような排泄の声掛けの仕方も個別による工夫がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬でのコントロールの必要がある方もいるが、水分補給や乳製品の摂取をしてもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、お風呂の準備をして希望にあわせながら支援している。嫌がる方には、あまりに間があかないようにタイミングを見て、職員が変わり声をかけるようにしている。	毎日入浴ができる。入浴拒否がある場合の対応は、職員の声掛けの仕方による工夫・対処しており、入居者の好みの湯温への対処は湯や水を注ぎ足して調整している。入浴剤は冬場に使用している。入浴の順番は入居者に応じた声掛けによる支援ができている。脱衣所には床暖房、浴室内にはエアコンを設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせた行動をとっていただいている。昼間の昼寝も、習慣でする方もいるし、人と一緒にいたい方はリビングで過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人のカルテに入れて職員がいつでも見れるようにしている。往診時に症状の変化は伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせて、外出好きな人には、外出支援や庭の散歩を行い、お手伝いの好きな人には役割を持っていただき、気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の外出支援は難しいので、希望があれば日程を決めて支援するようにしている。別事業所の協力や、地域の協力もいただいている。	年間行事での外出支援や希望に応じて日程を決めて外出支援を行っている。入居者の誕生日には、一人の職員が付き切りで外出や外食の支援で一日を過ごしている。外出を希望しない入居者には日頃から興味のある事の把握で入居者が喜ぶような物をプレゼントしている。現在、外出が困難な入居者は車輦により、全入居者が外出ができる工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自動販売機にジュースを買いに行ったり、買い物での外出支援の際、自分で支払いをしていただくなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、対応している。手紙は書ける人が少ないが、電話は希望される方が数名いらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があるので、光があまり当たらないようにしたり、テレビの音も小さめにしたり、季節ごとの飾りで季節感を出すようにしている。夏はすだれ、その他はレースのカーテンに変えるなど季節感を出している。	天窓からの陽射しの調整、入居者との会話がスムーズにできるようなテレビのボリューム等、音の調整に工夫している。一階の廊下の照明は夕方の日没時間に合わせて、早めに点灯している。季節感が味わえる飾り付け、フロアの壁に臭い予防の消臭剤を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを、気の合う人と座ってもらったり、一人掛けで座ってもらったりとそれぞれ居心地の良い場所にて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた、衣装ケースなどを持ち込み、壁には好きな人の写真を貼ったり、遺影を持ってきて飾ったりしている。お仏壇を置いている方もいる。	入居者が入居する際には、馴染みの物品を持ち込む事の受け入れができています。馴染みの茶碗、コップ、箸等の持ち込みを受け入れています。入居者の中には居室に仏壇を供えたり、家族の写真を飾ったり、各入居者の生活の場であり、自分の居場所であると感じるような居室作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の中で転倒がないよう、ベットやポータブルトイレの配置を工夫する。個人の部屋は身長に合わせ、低めに名札を置くようにしている。		